日本生体医工学会 2021 年度第 3 回理事会議事録案

日時：令和 3 年 10 月 27 日（水） 14:00～17:00
会場：ME 試験事務局内　会議室（CE コーポレーション）

＜出席者＞
副理事長：　木村 裕一
理 事：　山家 智之(兼 東北支部長)
＜Web 出席者＞
副理事長：　成瀬 恵治
理 事：　川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、中島 一樹、坂田 泰史、黒田 知宏、松村 泰志、村垣 善浩、塩澤 成弘、杉町 勝、井村 誠孝、横澤 宏一、芦原 貴司、堀 純也、中島 章夫、佐久間 一郎（兼 関東支部長）
監 事：　阿部 裕輔、中沢 一雄
＜オブザーバー・出席者＞
幹 事：　坪子 侑佑、木村 雄亮
事務局長：　磯山 隆
オブザーバー：　渡邉 英一（現東海支部長）、家入 里志（九州支部長）、原口 亮（専門家別研究会評価委員会）、椎名 毅（第 60 回大会長）、堀 潤一
＜欠席者＞
理 事 長：　守本 祐司
理 事：　大城 理（兼 関西支部長）
監 事：　望月 修一
オブザーバー：　嶋津 秀昭（北陸支部長）、石原 謙（中国・四国支部長）、大橋 俊朗（北海道支部長）、杉原 伸宏（甲信越支部長）、荒船 龍彦（若手研究者活動 WG 長）、坂本 信（第 61 回大会長）、福岡 豊（生体医工学編集委員長）、王 鋼（ABE 編集委員長）

＜理事会議題＞

0. 理事会の成立　木村副理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

1. 2021 年度 第 2 回目理事会の議事録の承認【審議 A】　山家理事

2021 年度 第 2 回理事会議事録案の内容について、全会一致で承認された。

2. 2020 年度消費税還付に関する税務申告に関して【報告】　事務局

日本生体医工学会の消費税を納めている小石川税務署より、昨年度依頼していた消費税還付申告に関する問い合わせがあり、現在対応を行っている旨が報告された。消費税計算ができるものの証票等の再提出が求められており、公認会計士の馬目先生のご確認が完了次第、税務署の方に提出を行う予定である。還付金は、約 100 万円程度となる予定である旨が報告された。

本件について、今後大会準備や ME 試験業務など、消費税が関係する業務について、工夫すべき点はあるか質問され、従来通りで問題ない旨が報告された。また、公益社団法人化して初めての還付指示となったが、これまで常に払い過ぎであったのかについて質問された。本件について、馬目先生に確認する旨が報告された。

3. J-STAGE Data 導入に伴う投稿規定の改訂について【審議 F】　横澤理事

第 2 回理事会の承認に基づき、日本学術振興会に「生体医工学」「Advanced Biomedical Engineering」両誌に関して、J-STAGE Data の利用申請を行い、それに伴う投稿規定の変更案が提案された。両誌の変更内容に違いはない。本件について、事前に編集委員会で確認を行ったところ、前回の改定時より倫理規定の変更が行われた旨が指摘され（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に統合）、こちらの変更も同時に行っている。

本件について、倫理規定については統合された規定から、更に変更がなされたのではないかと指摘された。こちらについて、引用元が最新であれば問題ないと思われるため、再度確認を行う旨が報告された。また、J-STAGE Data の内容確認は論文査読の一環として行うのか、またその場合の査読方針について質問された。本件について、形式上は論文査読とは別物として行う予定であるが、方針は未定であり、決定次第、編集委員会で共有し、理事会で報告する旨が報告された。

以上の審議より、投稿規定、及び倫理規定の改訂について、全会一致で承認された。また、本質的な内容に関与しない軽微な修正については、理事会を通さず編集委員会内で行う旨が承認された。

4. 第 42 回　第 2 種 ME 技術実力検定試験　開催報告・合否判定報告【報告 H】　中島（章）理事

第 2 種 ME 技術実力検定試験について報告された。試験は 9 月 12 日に、8 地域で実地開催され

た（うち東京：4 会場、大阪：2 会場、名古屋：2 会場で実施）。応募者は 7,116 名、受験者数は 6,577 名で、初めて 7,000 名を越えた旨が報告された。10 月 25 日に合否判定会議が行われ、全 120 問中 70 問（内、午前の問 59、午後の問 58 は解なし）を合格ラインとし、合格率は 42.5%、偏差値は 53.1 であり、過去 10 年で最も良い合格率であった旨が報告された。例年との違いとして、本年度は感染症対策のため小論文試験を実施せず、試験時間を短縮している。

本件について、来年度より小論文試験を再開するか否かについて質問され、来年のコロナ禍の状況次第で、実施時間なども踏まえ検討する旨が報告された。また、受験料の値上げについてネガティブな反応があったか質問され、特にそのような反応は無く、逆に集金方法を郵便局支払いからデジタル化に変更したことについて、非常に手続きがまとめやすかったと好評であった旨が報告された。また、新型コロナ感染による返金措置について、現在 17 件に返金の要望があり、返金手続きを行っている最中である旨が報告された。

5. 厚労科研の進捗について（アンケート依頼）【報告 Q】　黒田理事

令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金の交付が決定している。その一環として、再来年度の臨床研究法の改正に向け、実際の現場での困り事を収集した事例集の作成が求められており、そのためのアンケートを実施する旨が報告された。本アンケートを実施する旨は、既に木村副理事長より各支部長の先生方に通達されている。アンケート内容については既に決定しており、現在日本医療機器産業連合会のアンケートシステムに実装してもらっている最中である旨が報告された。本システムが実装され次第、改めてアンケートの回答を依頼する旨が報告された。また、できる限り多くの事例を収集したいため、生体医工学会だけでなく、関連学会等にもご連絡頂きたい旨が報告された。また作成した事例集は、公表する予定であるため、個別の研究内容が分かるようにはしないが、困り事が生じるまでのプロセスを明確にしたいため、できるだけ詳細に記載してほしい旨が報告された。

本件について、学会だけでなく、学内に通達しても問題無いか質問され、特に問題無い旨が報告された。

本アンケート実施について、全会一致で承認された。

6. 選奨規定の改定について【審議 K】　松村理事

研究奨励賞・阿部賞は、若手の奨励を意図した賞で、現在 35 歳以下の者とする条件があるが、女性~~の方~~で産休などに伴い、研究活動を~~外れて~~中断されていた方などがおり~~いらっしゃるいるため~~、規定を改定したい旨が報告された。改定案は以下のような内容を検討している。

・講演の時期において 35 歳以下の者、または、研究歴が 35 歳以下相当の者であること

・講演の時期において研究歴が 13 年以下の者であること

現状の改訂案の問題点として、研究歴の基準が曖昧である点や、高齢でも研究歴が短ければ対象となる点、自己申告がないと、研究歴が 35 歳以下相当の条件に合致する~~大~~か~~が~~分からない点などが挙げられた~~る~~。

本件について、科研費の若手研究が、本年度より年齢制限ではなく、博士取得後 8 年以内（出産及び育児休業を取られている場合は、その期間を除く）に変更されており、阿部賞もこれを参照するのが良いのではないかという提案がされた。阿部賞は博士取得者に限定していないため、「講演の時期において 35 歳以下の者（出産及び育児休業を取られている場合は、その期間を除く）」となる。その場合、例えば高齢の社会人ドクターなどは省かれることになるが、問題無いか質問された。これに対し、阿部賞は将来性を期待し、若手を奨励する賞であるため、絶対年齢を基準にした方が良いとされた。また、男性も育児休暇を取るので、女性だけでなく男性にも確認できる必要がある旨が報告された。また、選奨規定の変更はいつから行われる予定か、質問された。これに対し、本年度に~~を~~遡って~~の~~適用~~することは~~困難であるため、来年度から行う予定である旨が回答された。

以上の議論から、35 歳以下（根拠は科研費の若手研究）、男性女性共に育児休暇を取った方は、自己申告あるいは証明書の提出により期間を延長する、という内容で選奨規定の改訂案を作成後、次回~~の~~理事会で審議することで決定した。

7. 理事監事役員選挙の実施準備のお願い【報告 L】　事務局

~~来~~2022 年~~の~~1 月頃を目処に、理事監事役員選挙を実施予定である（2 月に開票、3 月に結果報告）。これについて会費未納の~~方~~会員については~~、~~代議員資格を喪失してしまうため、入金の催促が必要である旨が報告された。

8. 利益相反申告書提出のお願い【報告 N】　事務局

以前より依頼していた利益相反の自己申告書の提出について、未提出の先生方が何名かいらっしゃる旨が報告された。3 月末の内閣府への報告書提出までに、全ての利益相反確認が完了している必要があるため、未提出の方について、事務局より催促の連絡をする旨が報告された。

9. 生体医工学シンポジウム 2021 報告【報告 P】　大城理事（代理報告：木村副理事長）

2021 年 9 月 17 日、18 日に、生体医工学シンポジウム 2021 がオンラインで開催された旨が報告された。参加総数は 148 名、発表件数は 88 件であり、オンラインであったが、ほぼ例年通りの規模となった。シンポジウム論文投稿数は、「ABE」、「生体医工学」合わせて 31 件となり、減少傾向であったため、今後増加させていきたい旨が報告された。また、ベストリサーチアワードを 3 件、ベストレビュアーアワードを 5 件、ベストポスターアワードを 5 件、それぞれ選出した旨が報告された。組織委員長企画講演「日本生体医工学会の仕組み・内実・関わり方そしてお願い」について、「LIFE2020–2021」参加者向けに YouTube Live で同時配信をした旨が報告された。配信は限定公開とし、LIFE 参加者が聴講する場合は Zoom~~YouTube~~から直接ではなく、

YouTube~~Zoom~~で配信を共有し、聴講できるようにした。なお来年度は 2022 年 9 月 9 日（金）、10 日(土）に関西学院大学にて実開催予定である旨が報告された。収支としては 215,000 円の黒字となった旨が報告された。

本件について、黒字分の半分は北陸支部がインセンティブとして使用可能かどうか質問があり、使用可能である旨が報告された。

10. 2021 年度　各委員会・WG 委員の承認【審議 V】　事務局（代理：木村副理事長）

各種委員会、WG の委員構成について、未提出の委員会へのリストの提出依頼がなされた。

今回理事会までにリストが提出された編集委員会、シンポジウム WG の委員構成について、全会一致で承認された。

他の委員未確定の委員会については昨年度のメンバーを委員一覧に記載しているため、変更がなければ確定する。事務局より各委員会委員長に連絡し、締切までに連絡がなければ確定することとした。選奨委員会は選考開始までに委員が決定している必要があるため、その旨を考慮したうえで手続きすることとした。

11. 選奨申請「東北支部 YIA 賞」【審議 U.2】　山家理事

2021 年 12 月 11 日に行われる日本生体医工学会東北支部大会において、Young Investigator Award を設定したい旨が報告された。東北支部大会において発表を行った 35 歳以下（発表日時点）の会員と学生から 2 名程度選出する。なお、受賞者には賞状と図書カード 10,000 円分が贈呈される。

上記申請について、全会一致で承認された。

12. IUPESM の Bylaws 改正に関する賛否について【審議 E】　松田理事

日本生体医工学会が加盟する国際組織である International Union for Physical and Engineering Sciences in Medicine (IUPESM)が、正式な Company としての登記がなされていないため、WC2015、2018 に対して WHO のスポンサーシップが得られなかった。IUPESM が正式機関として認められるよう登記するために Bylaws 改定の投票が行われる。加盟学会として日本生体医工学会も投票することとなるため、理事会審議としたい旨が報告された。

日本臨床工学技士会の IFMBE への加入がまだ完了していないこと、IFMBE の Delegates の 3 名の枠（日本生体医工学会 2 枠、日本臨床工学技士会）に Bylaws 変更が影響しないかについて質問があり、Bylaws が変更されても日本生体医工学会としての活動における変更や影響はないとの回答がなされた。

上記に対して、賛成投票することが全会一致で承認された。

13. IFMBE 関連報告【報告】　佐久間理事

10 月 16 日にオンライン開催された IFMBE の Council of Societies Meeting の内容について報告された。各国の活動の現状、会員、理事会に女性がいるか、若手の活動促進を行っているかを含め、会員学会での情報共有が行われた。日本からは、オンラインでの学会開催やサマースクール実施が佐久間理事より報告された。その他の報告内容についても、現在佐久間理事が回答をまとめている旨が報告された。

Clinical Engineering Division の活動が活発であり、学会誌の作成なども行っている旨が報告された。今後、日本臨床工学技士会は CE Division に加入することになると思われる。また、COVID-19 関連で人工呼吸器の使用説明会などをオンラインで行っており、CE 部門の先生方にご確認頂き、役に立つ情報は日本の会員に発信したい旨が報告された。

また、IFMBE の学術誌である Medical and Biological Engineering and Computing 誌の新 Editor in Chief、Associate Editor を募集している旨についても報告された。

さらに、IFMBE アフリカ支部の設立も予定されている旨が報告された。

Clinical Engineering Division の活動について、日本臨床工学技士会に周知する必要があるか、質問された。本件について、日本臨床工学技士会には既に周知されており、こちらから行動を起こす必要は無い旨が報告された。また、MBEC 誌には学会としてどこまで関わるべきかという質問があった。ABE も比較的投稿数は多いため、編集委員会の負担は大きくなることが懸念されるため、Editor in Chief、Associate Editor の推薦ではなく、Potential Reviewer のリストを提供し、ABE の引用率を上げるよう動きたい旨が回答された。

次に、10 月 23 日にオンライン開催された IFMBE Administrative Council 総会について報告された。シンガポールで現地と Web でハイブリッド開催される World Congress に向けて各種 Award、Honorary Lifetime Member の推薦依頼があった旨が報告された。

Honorary Lifetime Member については、国際委員会内で議論、選出頂き、守本理事長に相談することとした、また、推薦すべき先生がいれば、国際委員会に連絡して頂きたい旨が報告された。また、会期中に開催される総会の Delegates の選定、各種 Award、IAMBE Fellow の推薦については、推薦すべき先生がいれば、国際委員会の松田理事までご連絡頂くこととし、IFMBE からの正式な依頼を待ち対応を開始することとした。

さらに、IFMBE 役員候補の推薦として、現会長の Prof. Krishnan より佐久間理事に次期会長の立候補の打診があった旨が報告された。立候補における学会推薦について、学会としてサポートしていくこととした。

また、WC ごとに行ってきた若手研究者のネットワーキングとしての Asia Pacific Research Network Fellow Program についても報告された。本事業はこれまでの継続によってネットワーク形成に一定の成果が挙げられてきている。財源は IFMBE が一部を払い、残りを日本生体医工学会学会で積み立てたお金から支払っている。今回シンガポールで開催されるので費用が大きくかからないことが予想されるため、COVID-19 の状況を考慮しつつ実施したい旨報告された。

14. 選奨申請「優秀発表賞」【審議 U.3】　佐久間理事

2021 年 12 月 11 日（土）にオンライン開催される日本生体医工学会 関東支部若手研究者発表会において、優秀発表賞を設定したい旨が報告された。39 歳以下の発表者のうち 7 名を表彰する予定である。なお、受賞者には、賞状を授与し、賞金や記念品等の贈呈は予定していない。

上記申請について、全会一致で承認された。

15. 入退会【審議】　村垣理事（代理：木村副理事長）

入退会希望において、入会希望が正会員 12 名、準会員 2 名、維持会員が 1 社（2 口）、退会希望は正会員 11 名、準会員 3 名、維持会員 1 社（1 口）であり、また、ご逝去が正会員 2 名であった旨が報告された。

上記の入退会について、全会一致で承認された。事務局で会員メールアドレスの更新後、広報担当の井村理事へ連絡することとした。

16. 内閣府への役員変更完了報告【報告】　磯山事務局長

社員総会ごとに学会理事会を構成する役員が変更されるため、内閣府に都度申請して承認を得ている。今回も、磯山事務局長と事務局的場様とで対応を進め、内閣府に提出して受理された旨が報告された。

17. 2022 年度学会賞公募開始報告（学会誌への掲載等）【報告 V.4】　学会事務局

2021 年度日本生体医工学会各賞候補推薦の依頼について、事務局より報告がなされた。論文賞・阪本賞、研究奨励賞・阿部賞、新技術開発賞、臨床応用研究賞・荻野賞の 4 つの賞について、公募が開始し、次号の生体医工学誌に掲載されることが決定している。

推薦書提出および応募締切は 12 月 20 日であるため、メールでの会員への周知を急ぎ事務局より行うこととした。

18. その他

横澤理事より、生体医工学 Web 用語辞典の執筆を担当された先生方から、業績に載せたいが第一分冊はいつ頃出版されるのかという質問があった旨が報告された。本件に対して、平田理事より、現状まだ見通しは立っておらず分かり次第連絡する旨が報告された。

以上

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿